

温暖化対策長期戦略と Society5.0 の思想

現代的環境主義宣言—技術こそが地球環境問題を解決する

杉山 大志 (すぎやま たいし) キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹

序文 標題の「現代的環境主義宣言(エコモダニスト・マニフェスト)」は、米国ブレイクスルー研究所¹(Ted Nordhaus 所長)が同所の基本思想として2014年に纏めたもの。「技術こそが地球環境問題を解決する」というビジョンを明確に示している。本稿は筆者による邦訳の紹介である²。日本政府は、この6月に地球温暖化対策に関する「長期戦略」を閣議決定した。その骨子としては、イノベーションを通じて温暖化問題を解決するとしている。また政府と経団連が提唱している Society5.0 でも、技術によって温暖化問題の解決および持続可能な開発(SDGs)の達成を図るとしている。何れも優れた取り組みであるところ、これから「思想」という段階にまで昇華する必要がある。この「現代的環境主義宣言」はその為に大いに参考になる。日本の文脈に即した形で環境問題についての思想を練り上げ、ひろく共有してゆくことが望ましい。

¹ 米国ブレイクスルー研究所について <https://thebreakthrough.org/about>

² 現代的環境主義宣言 全文邦訳 <https://ecomodernistmanifesto.squarespace.com/nihongo>

現代的環境主義宣言

地球は人間の惑星であるが、これは日々、ますます事実になっている。人間は地球から造られたが、地球は人間の手によって再び造り変えられている。地球科学者は、このことを、地球が新しい地質学的時代に入った、と表現するようになった。「人類世」、すなわち人間の時代である。

我々は、学者、科学者、運動家、および市民として、知識と技術が、叡智と共に利用されるならば、良き人類世、さらには偉大な人類世が訪れると確信している。良き人類世とは、人間が、ますます増大する社会的・経済的・技術的な能力を用いて、人々の生活をより良くし、気候を安定させ、自然を保護するものである。

理想の地球環境について、我々は2つの主張をする。第1は、長きにわたり理想とされてきたことそのものである。人類は、自然が地上でより多くの場所を占めるために、環境への影響を縮小しなければならない。第2に、我々は、「人間社会は、経済的・生態学的な崩壊を避けるため、自然に溶け込んで生きなければならない」という、もう1つの理想として掲げられてきた主張については、これを拒絶する。

この2つの理想は、もはや両立できない。一般的な法則として、人類が生活と幸福を維持するために、自然生態系への依存を強めるのであれば、自然生態系の保護も強化も不可能だからだ。

人間の多様な活動をより集中的にすること—特に農業、エネルギー採掘、林業、そして居住について—によって、より土地の利用を少なくし、自然界への介入を小さく留めることは、人間の発展を環境影響から分離するための鍵である。そのような変化を社会経済的・技術的に起こすことが経済発展と環境保護の両立の核心であり、人々は気候変動を軽減し、自然を保護して、世界的な貧困を削減することができる。

我々は、これまでは、各々が独立に論文を書いて活動してきた。だが、ここにきて、意見の広範な一致を見るようになり、活動の全体像がはっきりしてきた。我々は、自分自身を、現実的環境主義者であり、現代的環境主義者であると呼ぶ。我々は、人間が、その並みはずれた能力によって、良き人類世を創っていく、というビジョンを共有している。

1. 人類は、過去2世紀の間、飛躍的に繁栄した。平均寿命は30年から70年まで増加した。かつ、多くの異なる環境で生きることが可能になり、人口は大幅に